

柳井ふれあい森の会が柳北小学校で森の学校を実施

令和6年11月22日(金)に柳井市立柳北小学校で、柳北小学校の5、6年生の児童18名が竹パン作りを体験しました。

これは、次代を担う子どもたちに、森林の大切さやふるさとの林業の重要性を体感し、理解を深めてもらうことを目的に、林業研究グループ「柳井ふれあい森の会」(会長:山重義則)が「森の学校」として行ったものです。

はじめに、山重会長から、森林の働きについて話を聞いた後、会員の指導を受けながら竹パンづくりを開始しました。まずは、細い竹をちょうどよい長さにノコギリで切り、水できれいに洗います。その後、竹の棒にパン生地を巻きつけ、炭火にパン生地をかざして竹をくるくる回しながら竹パンをじっくりと焼き上げていきます。「竹に生地がうまく巻き付かないー」「あっ、もう焦げてる!!」など初めての体験に児童たちはワイワイと盛り上がっていました。

焼き上がると、竹の棒からホカホカの竹パンをするりと抜き取り、早速パクリ。児童たちは「あっつあつで美味しい!!」「外はカリカリ、中はモチモチ～」と言いながら、炭火で焼いた熱々の竹パンを味わいました。

柳井ふれあい森の会では、今後も森林資源を活かして、地域に根ざした取組を行うこととしています。



森林の働きについてのお話



竹パンを炭火でじっくり焼き上げます